

目次

開催にあたって	3
目次・凡例	4
北国街道の歴史	5
I 街道を地図であらわす	19
II ひとは道をつくる	29
1 古代の道	30
2 信仰の道	32
3 騒乱と道	36
4 北国街道開かれる	41
III 北国街道の役割	43
1 参勤交代の道	44
2 佐渡金山の道	58
3 高田検地の道	60
4 善光寺・戸隠信仰の道	61
IV 北国街道を旅した人々	71
1 高山彦九郎の旅〜人々を訪ねる〜	72
2 菅江真澄の旅〜名所・名物をめぐる〜	80
3 清河八郎の旅〜地震の地をめぐる〜	102
V 街道と町	111
1 善光寺町	114
2 丹波島宿	120
3 原村	128

4 松代町	130
VI 旅の備え	133
VII 近代化と交通の変容	137
寄稿論文「江戸富裕人の善光寺・上州温泉紀行」鈴木景二	140
主要参考文献	160
出品目録	162
謝辞	167

凡例

- この図録は平成二三年九月一七日から一月二三日までを会期として開催する長野市立博物館第五回特別展「道が人をつなぐ 北国街道の400年」の展示図録として作成した。
- 図版の番号と列品番号は一致しない。また、図録掲載資料で展示されていないものもある。なお、本展示は九月一七日から一〇月一六日までを前期、一〇月二二日から一月二三日までを後期とし、前期と後期の間に一部展示替えを行う。
- 本展示に関連して、企画、資料収集、写真撮影、写真提供などで多くの個人並びに機関から援助を賜った。巻末に記し、感謝の意を表す。
- 本文中の敬称は省略させていただいた。
- 本書末に富山大学の鈴木景二氏より玉稿を賜った。
- 本書掲載資料の写真は、御所蔵先から借用した写真のほかに、岡本公和氏、高久良一氏の撮影したものを含んでいる。
- この図録の執筆は当館学芸員・原田和彦、専門員・宮澤崇士が分担した。また編集は宮澤が担当した。
- 本展示の開催にあたり、芸術文化振興基金（日本芸術文化振興会）の交付をうけた。

開催にあたって

古くから道は、ひとやモノの交流をすすめる重要な施設として扱われてきました。このため道の整備によって社会のシステムが大きく変わることは現代の私達の社会にもあてはまることでしょう。

さて、江戸時代になると、幕府の置かれた江戸を起点とした街道の整備がすすめられました。こうしたなか、現在の長野市を中心とした北信濃には、「北国街道」と称する街道の整備がなされました。

北国街道は様々な恩恵をもたらしました。北国街道を介して様々な人々の交流が生まれ、これによって文化が広がりました。また、物流が盛んになることで地域間の経済流通が活発となりました。

北国街道が整備されてから今年（平成二十三年）で四百年になります。この節目の年にあたり、北国街道の歴史を単なる制度史ではなく、北国街道を行き来した人々を基軸に、街道の持つ意味を改めて考えてみたいと思います。

本展示を開催するにあたりまして、貴重な文化財を快くご出品頂きましたご所蔵者の皆さまをはじめ、多大なご協力、ご指導を賜りました関係各位に対し、厚くお礼申しあげます。

平成二十三年九月

長野市立博物館